

【めむろ未来ミーティング日程1】

令和4年1月11日(火)

10:35～11:35

上美生農村環境改善センター

■参加者 29人

■芽室町 町長、政策推進課長、農林課長、環境土木課長補佐

■記録 広報広聴係長

■対応・検討が必要な事項

- ①-1 山村留学の親子住宅の修繕の件(教育推進課)
- ①-2 山村留学の親子住宅が狭い件(教育推進課)
- ② 上美生地域のお試し住宅の件(魅力創造課、農林課)

1 開会

2 町長挨拶

3 町からの説明事項

資料1 公共施設等再配置構想

資料2 まちなか再生の取り組み

資料3 3回目コロナワクチン予防接種

4 意見交換

【意見】

上美生地域では地域おこし協力隊が地域で熱心に活動してくれており、今年度で3年の任期を終えると聞いているが、大変惜しいと思っている。引き続きやっていただくことはできないか。または、新年度から新たに地域おこし協力隊を採用する考えは？

【町長】

制度上は2年間までは延長できる仕組みであり、ご本人とも選択肢の一つとして話していきたいが、

別の方を採用するという考えはない。

地域おこし協力隊の皆さまは最終的には、芽室町に住んでいただくことや、なんらかの起業をしていただくといったことを目標にしてきた。上美生地域で活動している隊員については、地域に密着して一生懸命活動してくれているという認識であり、そういった認識の下で、引き続きお話ししていきたい。

【意見】

酪農業をやっている。バイオガスプラントについて、先日、町からアンケートも届きました。町としてはどのような考え方で進めていきたいのか。

【農林課長】

酪農家の皆さまにとって、家畜ふん尿の処理については大きな課題であると数年前から認識している。そのような中でバイオガスプラントありきでは考えていないが、家畜ふん尿処理の検討委員会を立ち上げて、JAや生産者の代表の皆さまとも検討を続けている。その中で昨年は、コンサルタントにも入ってもらい、実現に向けた調査も実施した。

ただ、結果としては電力収支バランスからすると難しいという結果も出ている。検討委員会では引き続き検討していきますが、バイオガスプラントも一つの選択肢として、またそれ以外の方法もないのかということも検討していく。

町単独として、バイオガスプラントがいいとかこうしたいという方向性は持っていないが、今後も生産者やJAと十分検討して考えていきたい。

【町長】

補足させていただきますと、かなり前から労働力不足に対する哺育育成施設の建設と、家畜ふん尿の処理の課題、この2点は以前から挙げられている。哺育育成施設は稼働し始めたが、家畜ふん尿の場合は、その後、課題として電気への系統連携がかなり厳しくなってしまったということが状況の変化としてある。当初の計画としてバイオガスプラントで発電していかうと思っていたものが、頓挫まで行かないですが、遅れてしまっている状況。

よって電気ではない手法はないかなど、課題としては依然として重要なものとして残っているという認識なので、この処理方法については、しっかり考えていきたい。

発電は厳しいという認識。

また、西上美生地域であれば、集団的に処理をしたほうがいいのかとか、他の地域であれば個別対応の方がいいのではないかなど、地域性も踏まえて区別しながら、両方について酪農基盤整備構想などに基づきながら検討委員会で並行して議論している状況。

【意見】

売電できないということだが、現状、上士幌では新電力として取り組んでいて、地域商社がいったん買い取り、それを売電するというをやっている。それによって、「上士幌町はカーボンニュートラルに貢献している」というPRにもなっており、町の広報ツールになりうる。

収支のバランスが悪いということはあるかもしれないが、そもそもJAめむろの計画では、20キロワットほどの計画だったと思うが、それだと家1軒分の電気量くらいにしかならないような計画になっており、抜本的にその計画のあり方自体も考えるべきだと思う。

また、ここから発生するメタンガスについて、水素ではなくアンモニアを燃焼する考えもある。発生するエネルギーも大きく、燃焼してもCO₂を発生しないもので、これを電力にする研究なども進んでいるので、こうした構造面でも考えてほしい。

これから酪農に従事する人も少なくなっていく中で、ロボットによる新しい技術なども出てきている。ふん尿処理はどうしても大変な経費が掛かる。1億円近くかかっている状態。それをそれぞれの酪農家1戸1戸で1億円の経費をかけるのは大変である。みんなの経費を共通化できる場所は、共通化しないといけないのではないかな。そういうところで手助けしてほしい。

また、明治という生乳の受け入れ先の大きな加工会社があるにもかかわらず、芽室の生乳は前年の生産量を割っている。他町村ではほとんどそういうところがない。帯広では、労働力の集約に取り組んで、ロボット

導入も進めて、前年比105%とか乳量を増やしているところもある。

共有できることはして集約化して、経費を抑えなければならぬといけないと思う。働きやすい環境づくりもしないと。そういうところの下支えを町がやってくれないと乳量も酪農家も減る中で今後続けていくことは厳しくなってくると思う。本腰を入れて取り組んでほしい。

【町長】

上士幌町はマイクログリッドと言って、町全体で独自に賄う仕組みを作っていて、構想を作ってやっていると思う。芽室町でも公共施設の電源にならないかということで検討したこともある。経費経費といいたくはないが、そのあたりも含めて検討しなければならないと思っている。

おそらく今後、酪農家は大規模化していくと思う。状況も踏まえながら、どういった方法がよいかということを経本的に考えていきたいと思う。

【意見】

新嵐山のことで、認定パークゴルフコースとしてやってきたが、すっかりその形がなくなってしまって、寂しい。あれだけ立派だったのにキャンプ場になってしまい、寂しい限りである。もとに復活することはできないか？

それと、新嵐山荘の社員の態度が良くないといううわさも聞く。そのあたりも考えてほしい。

【町長】

パークゴルフ場は公認コースで4コース36ホールあったので、そのころから見ると2コース18ホールになったことで、いろいろなお声もいただく。

また、平坦なコースでつまらないといった声もある。つまらない、いう部分はコースは減らしたが、さまざまな工夫を凝らしていきたいと思っている。

ただ、ご理解いただきたいのはファミリー層やアウトドアをしたいという人をターゲットにしていこうという方向に舵を切っているということがあるので、その点についてはご理解をいただきたい。パ

ークゴルフをやっている方を排除するつもりは全くないので、うまく共存していける方法を考えていきたい。

パークゴルフ場については、北側の林間コースは芝がなかなか育たなかったということも考慮して、また、ターゲットの変化とも合わせて、あのあたりをパークゴルフ場に戻すという考えはないことをご理解いただきたい。

面積的にも4コースに戻すのは難しい。以前は大会などもやられていたことも承知しているが、今の方針に沿って進めていきたいと考えている。

コースづくりについては、今の場所でもっと楽しいコースになるように工夫していくということについては実施していきたい。

新嵐山の社員の対応については、さまざまなご意見も耳に入ってくるので、きちんと会社とも話していきたい。

【意見】

レストランのメニューについても、年配者も食べやすいものも検討してほしい。

【町長】

貴重なご意見として持ち帰りたい。

【意見】

新嵐山はすごく自然に恵まれていて、財産だと思う。ただ、この間の12月の強風で、特に道道の東の旧キャンプ場の方などの倒木がすごい。

いっぺんには片付かないと思うけど、あのままではダメかなと思う。

樹木は、人間や動物すべてに恵みを与えてくれると思う。地球温暖化に対して、カーボンニュートラルの取り組みなども力を入れていくと思うが、町として自然環境を守るために、脱炭素の流れに沿ってどのように考えているのか。

私は、安全な食糧生産が大切だと思うが、化学肥料や農薬を減らしていくことが必要で、地力を向上させていく、安全な食料を作っていくことに、取り組んでほしい。

木を植えるということが大事だと思う。木を植えることに町が助成をしていくということを考えてほしい。

先日、自分の家の樹齢50年のカラマツの木を切ったが、そのあとに木を植えようと思っても、伐採した50年の木の方は全然売れない。このような構造だと、切った後になかなか木を植えるという気持ちにもなれないと思う。防風林にしてもそうだと思う。

そのあたりへの助成について前向きに考え、自然環境を守ってほしい。

【町長】

先日の強風による倒木については、私自身も状況を見てひどいと認識している。

町有林の場合は対応できるが、地主さんがなかなか自分の林を管理できていない状況もできていないことも聞く。管理には国から約4分の3は、補助は出るが、それでもできていない状況である。

ただ、おっしゃるようにそうした木を植えていくということに誘導していくことは必要であると感じる。

SDGsの考えで、持続可能な世の中にしていこうといわれているが、そもそも役所の仕事は持続可能な町を作っていくことを目指して昔から続けてきているわけなので、役所としての仕事をこれからもしっかりと果たしていくことが重要だと思っている。

ゼロカーボンシティの宣言をするとかなかにかアクションをすることは考えていませんが、役所としての仕事を果たしていくことで、そういったことにつながっていくという認識で取り組んでいきたい。

ただ今の植える行動につながっていかないという話は気になりますので、手法については考えていきたい。

【意見】

公立芽室病院のことで、今、マイナンバーカードを健康保険証としての利用していくということではあるんですが、公立芽室病院で、このマイナンバーカードを健康保険証に使うことができるようになるスケジュールなどが決まっていれば教えていただきたい。

【町長】

今の現状では、まだ健康保険証としてマイナンバーカードを使っていただけのような連携はしてませんが、これからは必須になってくると思っている。

少し話はずれますが、今年度、公立芽室病院に自動精算機導入した。しかし、使い勝手の面で色々ご意見をいただいたり、ご高齢の方々が使えないといった話があり、厚生病院のように職員を配置して対応できればよいのですが、それもなかなかできない状況である。余談ですが、新年度の4月から、もう1回、料金の清算関係の事務をいまは委託事業者にお願いしていますが、直営に戻そうと考えている。今まで委託していた事業所さんからも人材確保が厳しいということで、4月からは町の職員として雇い、きちんとしたサービスに結び付けようと考えているところである。

その中で、マイナンバーカードを使うサービスもシステム化して入れていくような形に持っていきたいと思っている。来年度すぐとは難しいと思いますが、マイナンバーカードの普及率も伸びていることから、連動して使いやすくすることは当然だと思うので、しっかりその辺を考えて、改善していきたい。

【意見】

山村留学協議会の会長をしている。

親子住宅に関してですが、山村留学の親子専用の住宅を、一戸を使わせていただいているのですが、壁もずっと塗り直したりもしていなかったり、物置も古くてすぐ傷んでいるのですが、修繕や更新をお願いしているが、なかなかねん出していだけない状況です。①

①

このことに限らず、教育委員会は一生懸命考えてくれるのですが、優先順位は、学校教育だったり、先生方に係るお金が優先なのか、山村留学の建物をとるとなかなか難しいのが現状かと思っている。

これまでずっとお願いはしているが、物置の扉が倒れてしまって使えなくなっても、それを応急処置してもらった感じが精いっぱいという感じである。

役場と教育委員会ですとちょっと組織が違う部分もあると思うのですが、そのあたりの連携というか、対応がなるとかならないかなと思っている。

また、親子住宅ではあるが広さが1DKで、ひと部屋と台所という感じで、正直狭い。ご家族で来てくれても住むの大変だなというのが、長い間の課題です。①

②

教育委員会でも、空いてる教員住宅を「今だったらここ使っているよ」という感じで配慮していただいているのですが、現実性がなく、できれば山村留学を募集するときに、「こういう住宅を用意しています！」と確実に言えるようにしてほしいし、家族で入れる広さの住宅がほしいと協議会として話しているところです。

また、山村留学だけに限らず、上美生に住んでみたいという方が、1週間ぐらいですけど、お試して住む体験ができるようになれば、そのあと、本当に長く住むよう探したり、建てたいという選択につながるのではないかと考えており、これは山村協だけではなく、地域にあるほしぞら協議会やNPOなどいろいろなところからも出てる課題である。②

ただ、教員住宅は先生のためのものなので、それをこのお試し住宅に充てられるかと言えば、やっぱりなかなか難しいとは理解しています。ただ、そういった需要があるので、家族で来られる方がお試しできる、なにか対応できるものがあればいいなと思っている。

【町長】

ありがとうございます。

公共施設全体の老朽化の部分にも繋がってくるかと思いますが、教育推進課の方からしっかり現場対応として予算に反映させるなど出てくるべき案件ではないかと感じるので、持ち帰り、状況を確認したいと思う。

端的に言うとボロボロになってしまっていて、かつ、親子住宅としては狭いということだと思いますが、住む家ですので、そこはしっかり対応してかなきゃいけないなと思いますので検討させていただきます。

町の予算の仕組みとして、秋頃からいろいろと算定を進めているので、今は最終段階の町長の査定が始まる段階になってきてしまっており、積み上げて議論していることから、来年度すぐにできるかどうか分かりませんが、心に留めておきます。

それから、上美生地域全体として、さっきお話しいただいたお試し住宅もそうですし、あの労働者のための住宅、あるいはやまなみの2階のことや、教員住宅のことなど、ある程度トータル的に考えてどういった住宅が必要なのか、そういったことをいろいろな角度から来るのではなくて、地域としてどういう風にするかと考えるのも一つの方法かと思う。

町としても、担当部署の違いから、こっちではAを建てました。こっちではBを建てました。でも、使い方によっては共有できるのという結果になるようなことではなく、地域の住宅の考え方としてもうちょっと整理が必要があるとお聞きしてて思ったので、リノベーションをすることも含めてトータル的に議論した方がいいのかなと思います。

【意見】

地域としてまとめてお伝えすることは、それが1番大事だなと思ってはいますが、まちでも移住定住やシティプロモーションなどを推進していて、いろんな移住者の方にアプローチしていつている取り組みや他の農村地域の情報があると思うので、そういう情報も上美生地域にもいただければ、いろいろと考えたりもできるかなと思うのでよろしく願いしたい。

【町長】

あの住む資源っていうのは、非常に大事で、移住定住の政策でも、住宅と仕事の二つが絶対に必要なものだと思います。

ただ、お試し住宅でも色々聞くと、悪く考えちゃうと安く泊まれるものだから、いろんなところを転々として観光みたいに使ってる人も中にはいると聞いているので、お試し住宅をやるにしても条件をしっかりセットした上で使っていただくような形を取らなければならないと思っている。

それとおっしゃるように教員住宅については、教育委員会で、取り扱いが違いすぎるので、お試し住宅と教員住宅を併用するというのは難しいかなと思いますが、町としても地域の住宅について、議論をしていくのはよいと思う。

【意見】

先ほど新嵐山スカイパークのことでお話があったが、最近、魅力ある施設や、キャンプ場とかができ、外から来られる観光客などがとても増えたと思う。

でも、町民サイドからすると、新嵐山荘内のよく利用する会議室などの利用料金が高くなったりとか、あこの間の年末に地域の女性たちが、忘年会で利用して、結構高めのコースにしたみたいなのですが、とてもじゃないけど食べられないような感じでのコースが出たらしいです。

この辺の質なのか量なのか、ちょっと考え直していただきたいというのが意見です。

あと、もうちょっと町民に還元できるような少し安めの設定もあってもいいのかなっていうのがもう一つです。

【意見】

それともう一つ、年明け早々に鳳の舞が休止したということで、公衆浴場がまちなかになくなってしまった。

施設の再利用じゃないですけど、その施設をまた改修したり立て直したり、また新たなことを考えているかということをお聞かせ願いたい。

【町長】

新嵐山の件は、よく分かりました。

ご意見としてしっかり捉えさせて頂いて、先ほども申し上げたように、そういった意見も含めて、私としても今一度しっかりやらなきゃいけないと思いますので、ただ安くすればいいってことではなくて、質ですとか、メニューの関係ですとか、話し合っていないといけないなって感じました。

変わるように努力していきたいと思っている。

それと町民還元については、町民だから安くするというのは難しいと思いますが、町民の方々に向けた新嵐山の事業を実施するといったことは、検討させていただいてますので、進めていきたいと思えます。また、バスの送迎については、町民限定でやらせていただいていますので、ぜひご利用いただきたいと思う。

る。

次に公衆浴場の件。

確かに公衆浴場は地方自治体として確保しなければならないという努力義務はある。

（11:35終了）

ただ誤解があるかもしれませんが、基本的には、鳳の舞さんは「民間の事業」としてまず始められて、それに対して、まちが公衆浴場として認定をして、当初より安い金額、410 円でやられているという経緯です。ご理解をいただきたい。

ただ、認定しているように公衆浴場的な存在でしたので、私どもも危惧していて、今、状況だけをお話させてく。

事業の存続に向けて、どこがやるかどうかははっきりとは言えませんが、交渉をさせて頂いてる状況です。1月3日で閉鎖していますが、元の会社の方で年度内ぐらいの交渉期間を設けて、次にやっていただけるような方がいないか交渉頂いてるのが実態です。

ただ、お約束はできない。そこは民間同士のお話になってくるので、町がどうということではない。ただ、町としてやれるとすれば、側面的にそういう接近をさせていただいて、交渉してみたいかがですかということはやらせていただいている。

あと経費としては、あの施設は温泉なので、ずっとある程度機械を回してなきゃならず、それで月々結構、お金がかかるんですが、それは元の経営者さんの負担でやっていただくことになりました。

現状、公衆浴場の「休止届け」を出している状態なのですが、休止できるのは6ヶ月間と決まっているので、この間で、なんとか次の方に経営譲渡みたいなことができないか、今チャレンジしている状況だとだけお知らせします。

本当にどうなるか分からないのが実態です。

一方で町としては、家にお風呂のない方を調査させていただいて、4名ほどいらっしゃるのですが、その方々について、新嵐山のお風呂に週2回送迎させていただいている状況です。

ずっと公衆浴場がないことは、好ましいことではないので、やはりいろいろ考えていかなければならないと思っていますが、今、具体的に何をどうするということとは申し上げられない。そのような状況であ

